



東京事務所の開設

地方自治体による産地直売



当時の東京事務所

地場産業の振興と産地直売販売システムで、町で生産された品を有利に売り捌くことを目的に、昭和49年置戸町東京事務所が開設されました。事務所は東京駅から電車で約30分の距離にある足立区保木町で、国道4号線の日光街道から80メートル、周囲には団地が立ち並び約150万人が住む所。店舗兼事務所は604平方メートルの土地に鉄骨モルタル総2階建て358平方メートル、20名収容の宿泊室もあり、土地買収費も含めて約1億円でありましたが、町では前年玉ねぎ、馬鈴薯、木芸品等を瀧口町長自ら東京に持ち込んで販売したところ、大手スーパーや卸店、区役所などから、常時出荷を勧められ、東京進出ワンステップ成功で自信を深めていました。

これより先、町では約1,000万円で約100平方メートルの特産物センターを町内に新設するとともに、置戸町振興公社を発足させて①特産物センターの経営②各種事業の振興③観光開発④その他の開発振興に関する事業を推進することを決め、特産物センターには町内の事業所が生産する床柱や

木彫り等の飾り物、植木鉢など地元の木を生かした加工品のほか、他市町からの斡旋品も並べられ、同館を足がかりにして東京への売り込み計画が練られていました。

同年12月21日オープンした東京事務所には、役場から橋本文雄課長ほか1名と農協からも1名が専従職員として派遣され、当時では珍しい地方自治体による産地直売に、大手新聞も紙面を割き、スタートは上々の成績を上げましたが、都市における経営の波は厳しく、同51年の瀧口町長勇退に伴う町長選挙で当選した齊藤町長は、赤字の同所を翌年閉鎖して建物を売却したので、同所はわずか2年と数カ月の営業で終止符を打ったものの、その後の地価高騰もあって、売却価格は1億750万円で、建物購入の実質的損失はなく、また、置戸の牛肉の流通経路を築くのにその後も役立ち、あながち冒険暴投ではなかったことを証明しました。

(参照『置戸町史下巻』、『続置戸町史』 ※文中人名敬称略)

新たに置戸町に
来た方を紹介する

みなさんこんにちは



おお た ま さ き
太田 雅己 さん

置戸赤十字病院
事務部長

【前任地は】旭川赤十字
病院

【出身は】中富良野町生
まれで札幌の専門学校卒業

【ご家族は】旭川市に妻、2人の子供は独立
【趣味は】日本ハムファイターズの試合観戦
【置戸の印象】街並みがとてもきれいですね。皆さん挨拶してくれます。

【皆さんへ一言】長谷川院長を補佐しながら置戸の医療を守っていきたいです。



とう ま はやと
當麻 隼 さん

役場地域福祉センター
高齢者支援係
介護支援専門員

【出身は】置戸生まれで、
小学2年生までいました

【ご家族は】妻

【趣味は】山菜採り、海釣り、最近は家庭菜園
【なぜこの仕事に】北見市内の介護福祉施設で働いていましたが、介護支援専門員の募集を知り、生まれた町に戻ろうと思い応募しました。

【皆さんへ一言】笑顔を絶やさず努力して、皆さんが笑顔になれるよう頑張ります。